

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2013年度達成度評価表 分野:大学教育

		評価	理由
中期計画	1 学士課程教育の質的向上の推進		
実行計画	(1) 大学の理念、目標と共通教育・学部専門教育の理念、目的を体系化し、広社会に公表する	C	全学的な方針のもとに整備・充実しようとする方向性が見えてこない。学士課程教育部会(現・教育開発センター委員会)のイニシアティブが不十分。
	(2) 学部のAP/CP/DPを恒常的にチェックする体制を整備し、教員・学生にそれを周知する	B	各学部の実施状況に照らすとB評価が妥当である。
	(3) 学部専門教育課程の体系化(カリキュラムチェック)と、教員間の組織的な教育連携を強化する	C	各学部ではある程度の進展は見られるが、学士課程教育部会(現・教育開発センター委員会)を中心とした全学的な取り組みに進展がほとんど見られない。
	(4) 成績評価の適正化・多元化へ向けた取り組みを実行する	C	一部の学部では意識的な取り組みが見られるが、多くの学部および学士課程教育部会(現・教育開発センター委員会)を要とする全学的な取り組み・方針が不十分。
	(5) 学生の主体性を培う能動的学修(アクティブ・ラーニング)を教育に取り入れる	C	いくつかの学部においては部分的取り組みが見られるが、全学的な意識的取り組みとしては不十分。
	(6) 学生相互が支え合う学修支援体制を構築する(ピア・サポート制、学生ボランティア等)	B	学修支援の場所づくりと体制づくりが課題である。そのうち前者は目標通りKACに「ピア・サポートルーム」を設置した。
	(7) 授業の理解に必要な基礎的学力・知識を補う教育(リメディアル教育)の実施に取り組む	C	一部の学部では計画通り実施しているものの、学士課程教育部会(現・教育開発センター委員会)での全学的な検討は進んでいない。
	(8) 初年次における大学入門指導の充実と、これに続く指導教員制度の確立に取り組む	B	本施策は学士課程教育部会の主導と学部の協力によって実現できるが、現状としては一定の成果を挙げている。
	(9) 学生の転学部・転学科制度の再構築を行う	C	学部レベルでの実施や検討は見られるが、全学的な方針に基づく再構築に向けての動きは不十分。
	(10) 高い学修意欲を持つ学生を育てるためのアドバンスコース構想実現を目指す	C	一部の学部におけるカリキュラム上の取り組みが見られるが、学士課程教育部会(現・教育開発センター委員会)を中心とした全学的な検討や方針作りは進んでいない。
	(11) 学際教育機構の見直しを図る	A	学際教育機構の防災・社会貢献ユニットは現代社会学部の学科に、スポーツマネジメントユニットは共通教育センターのプログラムへの発展的解消の方向が示され、全学的な合意を得た。今後は施策項目自体を見直す必要がある。
中期計画	2 大学院課程の改善		
実行計画	(1) 大学院の理念、目的を再確認し、学則ならびに各研究科の規程に反映する	B	各研究科での実施が見られる。今後は、理念、目的を学外に公表する施策も必要と思われる。
	(2) 研究科におけるAP/CP/DPを確立し、それを公表する	B	取り組み姿勢の濃淡はあるが、各研究科での取り組みが見られる。
	(3) 大学院担当教員の人事手続を明確にし、その透明性を図る	B	教育開発センターと各研究科の連携により、研究科ごとの点検・検証が行われている。
	(4) 大学院担当教員の資格チェックを恒常的に行う体制を確立する	C	多くの研究科では基準や手続が明確にされたが、一部の研究科では進んでいない。
	(5) 学位審査基準ならびに学位審査手続を明確にし、その透明性を図る	C	一部の研究科では基準や手続の明確化が進んでいない。
中期計画	3 共通教育機構の抜本的見直し		
実行計画	(1) 共通教育センターを設置し、共通教育運営体制を再構築する	B	共通教育センターの設置が決定され、専任教員の採用人事が進められるとともに、基本的な規則等の整備がなされた。
	(2) 共通教育の編成・実施方針(CP)を再確認し、教養教育の一層の充実を図る	B	キャンパス再編後のカリキュラム等について共通教育機構で検討がなされ、新学部の完成年度に向けて共通教育のカリキュラムの再編を目指すことが決定された。
中期計画	4 キャリア教育の充実		
実行計画	(1) キャリア教育の全学的整備・体系化により、効率的に充実したキャリア教育を実現する	C	現状ではキャリア教育はつぎはぎだらけの状態であり、キャリアセンターと各学部・共通教育の連携による全学的な再構築がなかなか進んでいない。
	(2) 学生が卒業後に社会的・職業的自立を図ることができるよう、各学部におけるキャリア教育の位置づけと役割を明確にする	C	この実行計画に関して各学部とキャリアセンターとの連携が見えてこない。各学部でのキャリア教育、共通教育としてのキャリア教育、資格や公務員受験に向けた課外講座(キャリアセンター所管)の連携のあり方について全学的に検討し、方針を立てる必要がある。今後は教育開発センターの役割も重要と思われる。
	(3) 課外講座の一層の充実と、2キャンパス体制での講座運営の課題改善に取り組む	C	キャリアセンターを中心とする全学的な方針・成果目標などの検討が不十分。サイドワークにとどまっているが、実際にはこの取り組みが大学の価値を高める上で重要であることを再認識すべき。
中期計画	5 FD活動の促進		
実行計画	(1) 教員の教育力向上に資する実効性のあるFD活動を展開する	B	FDへの意識的取り組みが不十分な学部もあるが、教育開発センター主導の全学的取り組みには一定の進展と成果が見られる。ただし、FDへの参加率をさらに上げる努力が必要。
	(2) シラバスの整備充実を促すチェック体制を構築する	C	シラバスのチェック体制は構築あるいは構築への道が確立されていない。
	(3) 授業改善アンケートのあり方を再検討し、学生の意見が授業改善に反映される仕組み作りを行う	C	ほとんどの学部ではアンケートが実施され、学部によってはその結果が活用されているが、一部の学部ではアンケートが実施されているとはいえない状態。授業改善への反映は制度的に不十分のまま。
中期計画	6 教育環境の整備充実		
実行計画	(1) 講義室、演習室、実習室の機能的改修を継続して行う	C	今年度はほとんど動きがなかったが、今後は年次的な計画を策定する必要がある。
	(2) 適正な図書館資料の収集と学習サポートの充実を図る	B	図書館による独自の取り組みで先進的な成果を挙げた施策も見られるが、進展の鈍いものも見られる。総合的にはB評価。
	(3) 情報環境の整備と学習サポートの充実を図る	D	今年度は実行計画を実施するための3つの施策に着手できなかった。
	(4) 学生自習室の整備と充実を進める	C	自習室の充実が進まなかった。キャンパス再編に向けて学生ニーズの高い施策には早急に取り組むべきである。
	(5) 学生のグループワークや学修交流を可能にするオープンスペースの確保を実現する	C	KPCではD号館建設計画で見通しが立った部分があるが、KACでは整備計画が進んでいない。
	(6) 教学支援体制の整備と充実を図る	C	この実施計画実現に向けた施策の策定が不十分。
中期計画	7 教育開発センターの拡充		
実行計画	(1) 教育の質的向上を目指して、その実現に必要な体制拡充を行う	B	目標である教育開発センターの組織的見直しとセンター専任教員の配置は成されたため。なお、一部の関係規則の整備は完了していないので継続的取り組みが必要。
中期計画	8 教育の国際化推進		
実行計画	(1) 外国語学修に意欲を持った学生を育てるための、共通教育外国語分野の見直しを行う	C	共通教育機構でも十分な対応がなされなかった。ただし、共通教育センターでは2キャンパス体制でのカリキュラム再編において具体的な施策を検討することになっている。
	(2) 国際交流協定校の見直しを行い、その交流や交換派遣留学に係る課題整理と改善を進める	C	学部によっては積極的に取り組んでいる例もあるが、全学的に見て、各学部と国際交流センターに連携が希薄である。
	(3) 外国人教員の積極的な採用に取り組む	C	共通教育機構では機構再編の動きの中で十分な取り組みができなかった。また、全学的にも、この実行計画に対する取り組み意識は十分ではない。
中期計画	9 外国人留学生の受け入れ体制の整備と充実		
実行計画	(1) 留学生の日本語教育を強化する体制を整える(共通教育機構)	B	共通教育センターや一部の学部では進捗が伺える。
	(2) 留学生の学修支援・生活支援における課題整理と、その改善を進める	C	学修支援については改善に向けての動きが見えない。生活支援では、留学生対象のイベントや行事の実施は一定の評価に値するが、基本的な生活支援については再検討が必要。
中期計画	10 アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜制度の見直し		
実行計画	(1) 各学部APIに基づいた、入試科目、入試制度の見直しを行う	C	各学部では一定の取り組みが見られるが、入学センター委員会における全学的な見直しの方針や提言などが見られない。
	(2) 編入学のあり方を再検討し、編入学定員の見直しを行う	B	各学部では取り組みがなされているが、大学全体としての編入学に関する基本方針、意義付けを確認する必要がある。
	(3) スポーツ選抜入試の課題を整理し、その改善を進める	B	受験生確保のため、試験日程の再編(前期日程、後期日程)が改善策として策定された。ただし、より抜本的な改善策を入学センター、学生支援、各学部で検討すべき時期に来ている。
	(4) 適切な入試問題出題のための組織的・制度的見直しを行う	B	入学センターによる恒常的な改善に向けた取り組みがなされている。なお、共通教育センターの設置が決まったことにより、近い将来は、英・国・数の出題体制はある程度強化される見通しができた。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る